

## はじめに

本文献解題は、編者が1987年3月から1989年3月にかけてマレーシアの首都クアラルンプールにあるマラヤ大学図書館に派遣された際の成果の一部であり、これから現代マレーシアの経済について基礎から勉強しようという方々あるいは現代のマレーシア経済について一応の概観を得ておきたいという方々の便宜に供することを主眼として編纂されたものである。

しかしながら、これまでに刊行されたマレーシアの社会科学関係すなわち政治・経済・社会などを主題とした文献の数は、マレーシア国内で刊行されたものはもちろん海外で出されたものも含めると、当然のことながら単行書だけを取り上げてもかなりの数に上る。逐次刊行物を含めればなおさらである。しかも、同国の目ざましい経済発展に比例するかのよう、近年特にこの分野における文献数の増加は著しい。これらをすべて対象とするような文献目録の編纂は、とても一個人でできるものでないことはいうまでもないし、本文献解題の目指すところでもない。

従って、ここでは主に次のような基準に従って文献を取捨選択し、なおかつ利用者の便宜を考えて各主題ごとにごく簡単な解題を付すことにした。(1) 主題としては、経済分野すなわち経済事情や経済発展の分野を主たる対象とし、これに伴って生じた社会発展・社会変動を分析対象としたものを含む。(2) 時期的には、マレー人に経済開発の利益を優先的に分配しようとする開発政策すなわちブミプトラ政策が開始された1970年代以降に刊行された文献を取り上げる。それは、このブミプトラ政策開始以降、マレーシアの政治・経済・社会構造に大きな変化が生じ、それが今日におけるマレーシアの国家としての基本的性格を規定していると考えられるからである。(3) 経済との関連が全くあるいはほとんどない純政治的・純社会的なものは取り上げない。(4) マクロ経済ないしはマクロ経済政策との関連性が薄いものは、たとえ基本的あるいは重要なものであっても取り上げない(たとえば農業事情など純粹に産業各論的なもの)。(5) 統計資料のうち経済の基礎的なデータを知るために重要なものをいくつか取り上げる。ただし、既に数値が古くなってしまったようなものは除外した。マレーシア統計局・農業省・労働省刊行のものを主として取り上げた。(6) マレーシア本国で出版されたものを優先的に取り上げる。海外で出版されたものについては、出版点数の多い英語文献が主な対象となる。英語以外の言語で書かれた文献の量は、経済分野に関してはあまり多くない。マレーシアの国語(bahasa kebangsaan; national language)はいうまでもなくマレー語であり、ブミプトラ政策の開始以降マレー語化運動が推進されたこともあって近年マレー語出版物が増えてきてはいるが、経済などの社会科学分野では専門的な表現力の問題もあってマレー語文献の比率はまだまだ少ない。マレーシア国内で出版されたものでも英語文献が多いのはこのような事情による。

本文献解題では、アジア経済研究所図書資料部が既に所蔵しているか、現在整理中であるがいずれ利用可能になることを前提としている文献を主体に取り上げた。このなかには編者がマレーシア滞在中に収集したのもかなり含まれているが、現地においても極力体系的な収集活動を心掛けたつもりである。

本文献解題の編纂にあたっては多くの方々からの助力をいただいている。編者の勤務すアジア経済研究所からはマレーシアでの2年間にわたる調査の機会を与えていただいた。また、マラヤ大学図書館（中央図書館）には編者の長期間にわたる受入れを承諾していただいた。同図書館は所蔵資料の質・量の両面においてマレーシア最大の図書館であり、編者は、短期の研修生を除いた同図書館最初のvisiting librarianという名誉ある地位を占めることになった。しかも、館長のMrs. Khoo Siew Munを始めとする優秀な図書館員の方々には様々な面で適切な助言をいただくことができた。この場を借りてあつくお礼を申し上げたい。

1992年2月

編者